

はじめに

平成23年3月11日に発災した東日本大震災及び東京電力株式会社福島第一原子力発電所事故では、多くの子どもたちが避難を強いられ、学ぶ環境も厳しい状況になりました。そのような中で、南相馬市立中央図書館では、小学校の学校図書館を支援するために、平成24年度に4校をモデル校に位置づけ、学校図書館支援員の派遣を開始しました。平成25年度には、小学校全校（16校）に拡大し、平成26年度からは、中学校全校（6校）を含む市内21校に派遣をしております。

また、平成29年度には学校教育課と連携し、小学校3校をモデル校として、週5日勤務の学校司書の設置を開始しました。

本市では、「南相馬市教育基本振興計画」及び「第二次南相馬市子ども読書活動推進計画」を平成27年度に策定し、子どもの読書活動の充実や学校図書館の活用に係る施策を多く掲げ、実施しております。

この背景には、大震災以降したことから、学校図書館においても子どもたちの読書活動を応援することで、読書を通じて豊かな感性を育み、困難を乗り越えるちからを涵養してほしいとの願いがあります。

本報告書は、平成30年度に学校図書館支援員が、各校の経営方針に基づき、校長先生をはじめ司書教諭の方々のご指導をいただきながら、また、中央図書館の児童チームと連携を図り、ともに学校図書館の充実を図った活動記録です。

今後も、南相馬市立中央図書館として、温かくきめ細やかな学校図書館の支援の在り方を探究し、実践していきたいと考えております。

平成31年3月

南相馬市立中央図書館